

昭和43年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1. 「ぼーとらった丸」 1)、2) は「船の科学」1968-3 (Vol.21, No.3) より採取。

・第23次鉄鉱石運搬船 ぼーとらった丸 DWT 93,356 kt

鉄鉱石運搬のため、和歌山-豪州 PORT RATTA 間 就航

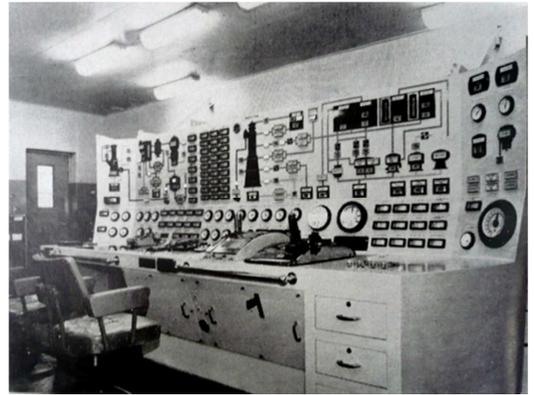
・船主 : 第一中央汽船(株) ・建造 : 浦賀重工業(株) 浦賀 昭和43年1月31日 竣工

・1) は本船全景、 2) は中央制御室の集中制御/監視盤。

1) W43-01 ぼーとらった丸 全景



2) W43-02 ぼーとらった丸 中央制御室



2. 「MATAURA」 3)~8) は「船の科学」1968-7 (Vol.21, No.7) より採取。

・冷蔵貨物船 MATAURA DWT 11,731 Lt

・船主 : The Newzealand Shipping Co. Ltd. (P&O Group)

・建造 : 三井造船(株) 玉野造船所

昭和43年5月15日 竣工

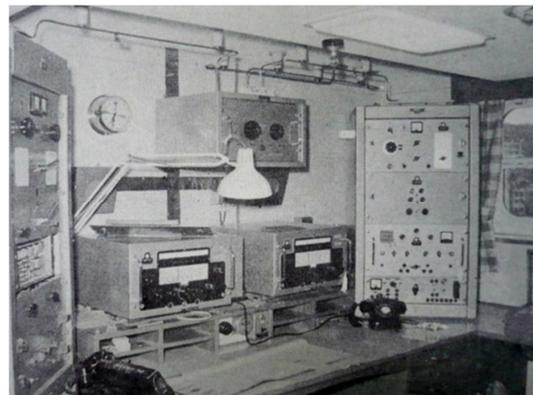
3) W43-03 MATAURA 全景



4) W43-04 MATAURA 操舵室

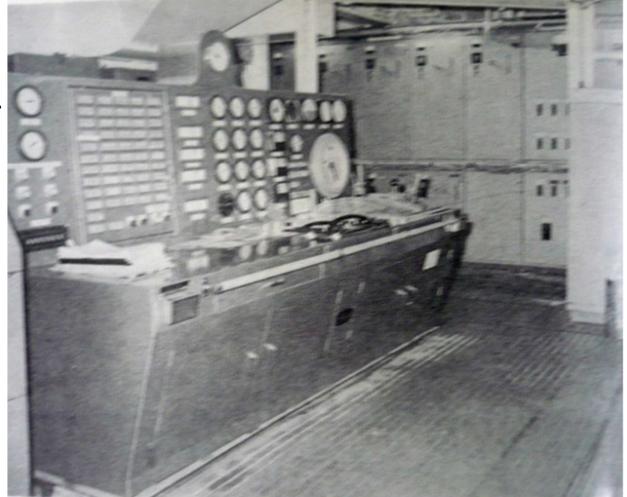


5) W43-05 MATAURA 無線室

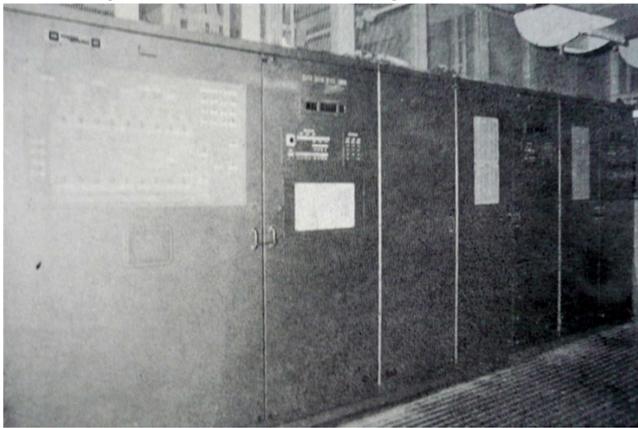


- 3) は本船全景、冷蔵船は珍しい。
- 4) は操舵室、操舵スタンド、レーダが見える。
- 5) は無線室で、左端は主送信機、中央下は受信機2台、右端は Emergency Rack (MARCONI 製)。
- 6) は Engine Control Station, 7) は Engine Monitor 及び Cargo Monitor、白い部分は Graphic Panel とのことだがよく見えない。
- 8) は主配電盤。

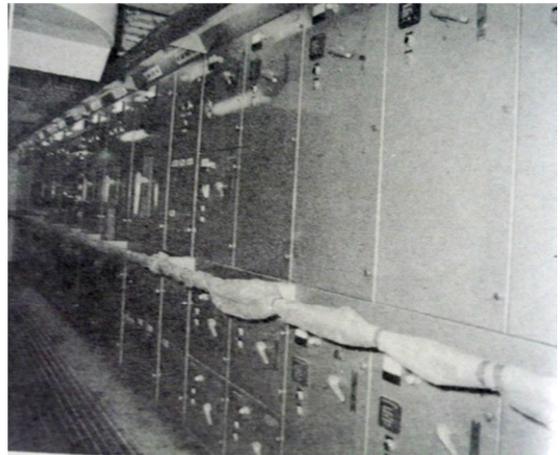
6) W43-06 MATAURA Eng.Control Station



7) W43-07 MATAURA
Engine Monitor 及び Cargo Monitor



8) W43-08 MATAURA 主配電盤

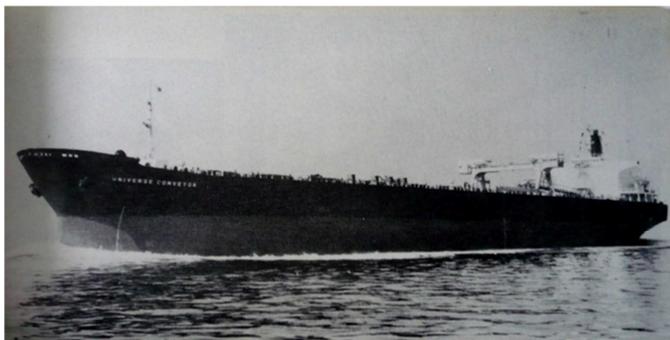


3. 「UNIVERSE CONVEYOR」 9)～12) は「船の科学」1968-7 (Vol.21, No.7) より採取。

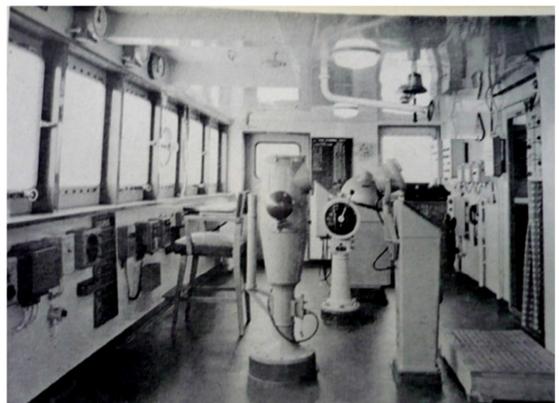
- 世界最大のコンベアばら積船 UNIVERSE CONVEYOR DWT 74,414 Lt
毎時 2,000 トンの荷揚げ能力を持つ ベルト・コンベア装置を備えている。
- 船主 : シー・タンカーズ社 (米国 National Bulk Carrier 会社系列)
- 建造 : 石川島播磨重工業 (株) 呉造船所 昭和43年3月15日 竣工

- 9) は本船全景、コンベア船は珍しい。10) は操舵室、操舵スタンドの前にあるのは磁気コンパス、少し旧式な配置である。11) は Engine Control Room、12) は Radio Office

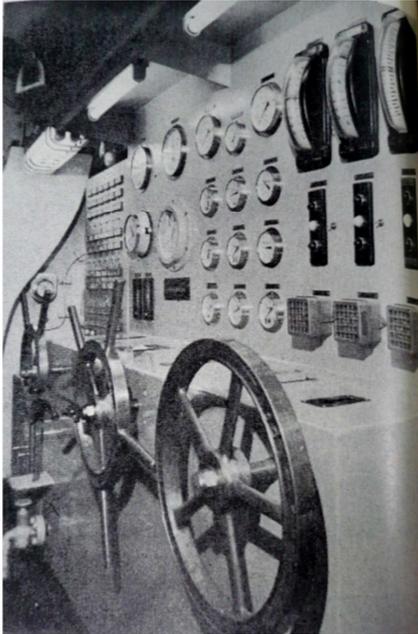
9) W43-09 UNIVERSE CONVEYOR 全景



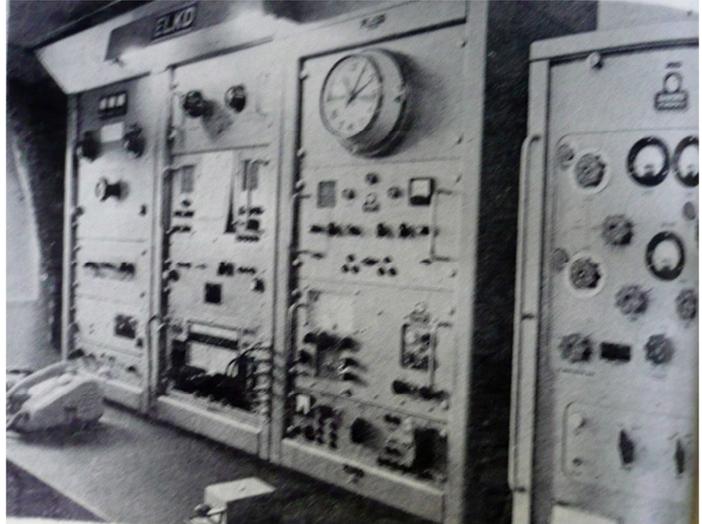
10) W43-10 UNIVERSE CONVEYOR 操舵室



1 1) W43-11 UNIVERSE CONVEYOR
Engine Control Room



1 2) W43-12 UNIVERSE CONVEYOR
Radio Office



4. 「UNIVERSE IRELAND」及び「UNIVERSE KUWAIT」

1 3) ~ 1 6) は「船の科学」1 9 6 8 - 9 (Vol.21, No.9) より採取。

・世界最大 312,000 トン タンカー UNIVERSE IRELAND (IHI)、UNIVERSE KUWAIT (MHI)
IHI が3隻、 MHI が3隻 受注した。

・船主 : Bantry Transportation Co. Bermuda (米国 National Bulk Carriers Inc. の子会社)

・建造 : UNIVERSAL IRELAND 石川島播磨重工業 (株) 横浜第2工場 昭和43年8月23日竣工
UNIVERSAL KUWAIT 三菱重工業 (株) 長崎造船所 昭和43年8月30日 竣工

・1 3) は本船全景、タンカーとしては我が国初の2軸2舵船とのこと。1 4) は Wheel House、操舵スタンドを挟んでレーダ2台が見える。

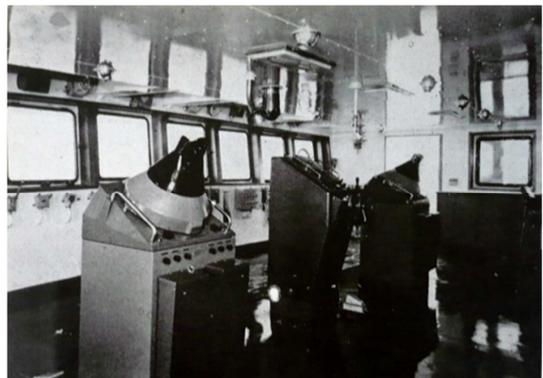
・1 5) は Machinery Control Room で K-Logger を装備し、軸馬力、主軸スラスト、ボイラー排ガスなど自動記録しているとのことで、当時としては新しい試みである。

・1 6) は Cargo Oil Control Room で、弁制御用の大きな立派なグラフィック・コンソールが見える。

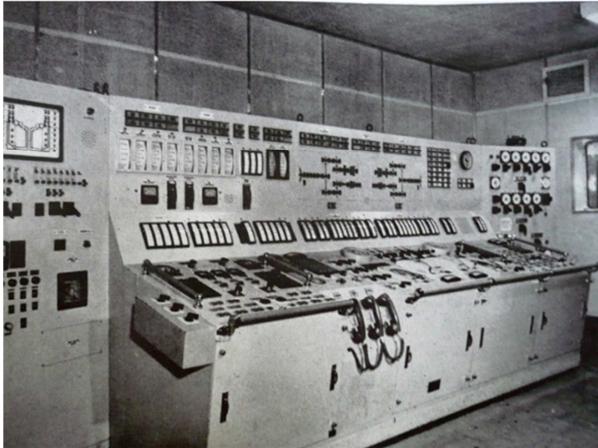
1 3) W43-13 UNIVERSAL IRELAND 全景



1 4) W43-14 同左 Wheel House



15) W43-15 UNIVERSAL IRELAND
Machinery Control Room



16) W43-16 UNIVERSAL IRELAND
Cargo Oil Control Room



5. 「箱根丸」 17) ~ 19) は「船の科学」1968-12 (Vol.21, No.12) より採取。

- ・第23次計画造船 コンテナ船 箱根丸 我が国最初のコンテナ専用船 DWT 16,306 kt コンテナ搭載数 752 個 (80 個)

17) W43-17 箱根丸 全景

() 内は冷凍コンテナ

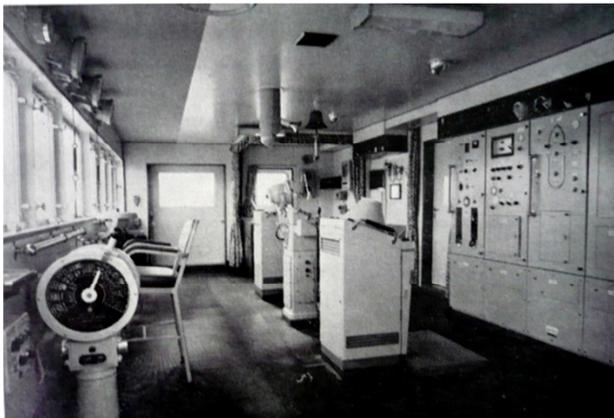
- ・船主 : 日本郵船 (株)
- ・建造 : 三菱重工業 (株) 神戸造船所
昭和43年8月27日 竣工



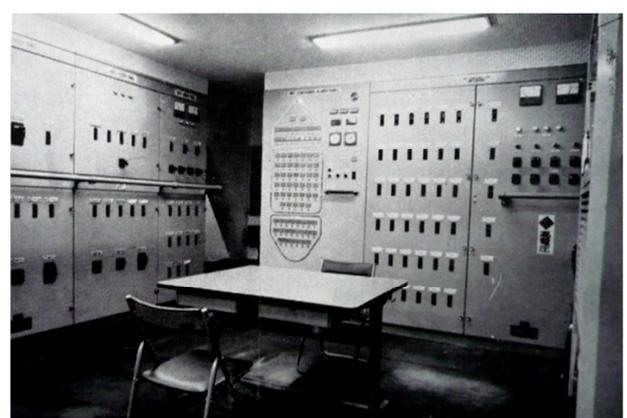
- ・17) は本船全景、我が国最初のコンテナ船である。
- ・18) は操舵室で、写真右手は W/H Group Panel である。本船では操舵室と海図室は一体化されていない。
- ・19) は機関制御室で、中央に見えるのは冷凍コンテナの警報装置である。

- ・船舶の無線装置は、当時は電信 (トン・ツー) が主流であったが、本船では電信のほか、SSB無線電話が導入された。(SSBとは Single Side Band のことで、電波に音声を乗せると通常、搬送波を挟んで、両サイドに変調波が生ずるが、その片側だけを使用しようとする方式で、電波の使用する帯域を狭くできる利点がある。)

18) W43-18 箱根丸 操舵室



19) W43-19 箱根丸 機関制御室



6. 「仁光丸」(JINKO MARU) 20)～24)は「船の科学」1969-1 (Vol.22, No.1)より採取。

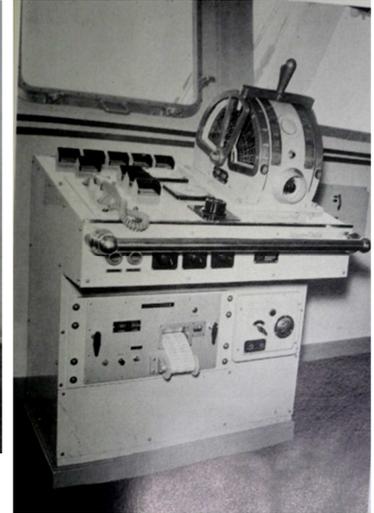
- ・ 我国初のM10 (機関室無人化) 船 撒積貨物船 (木材チップ) 仁光丸 DWT 23,196 kt
- ・ 船主 : 三光汽船 (株) ・ 建造 : 浦賀重工業 (株) 浦賀造船工場 昭和43年11月29日 竣工

- ・ 20) は本船全景、12時間、無人機関運転ができる我が国最初の船とのこと。21) は操舵室の主機操縦台、22) は機関制御室のコンソール、23) は配電盤、24) は制御室の主機操縦台。

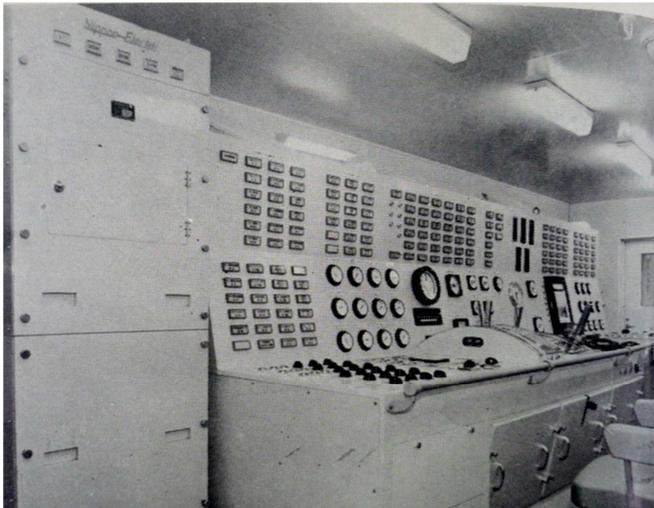
20) W43-20 仁光丸 全景



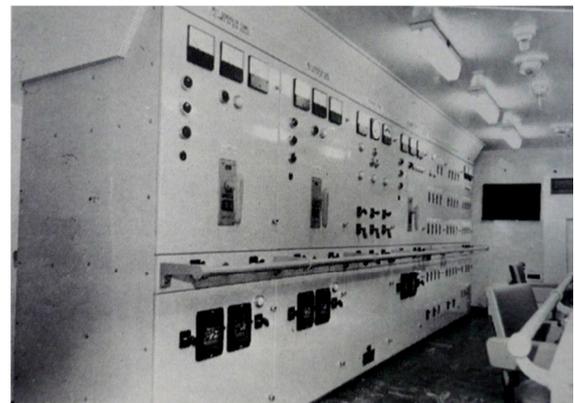
21) W43-21 仁光丸 操舵室



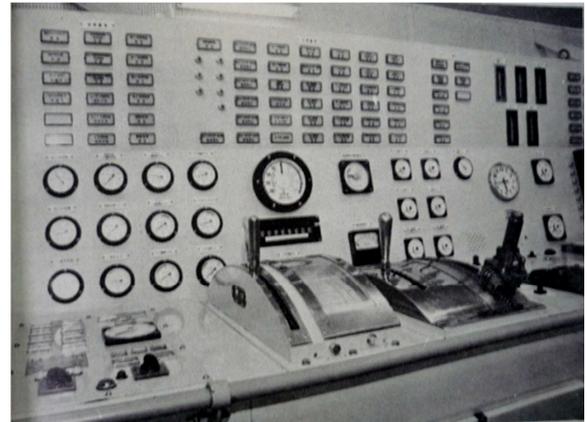
22) W43-22 仁光丸 機関制御室 (1)



23) W43-24 仁光丸 機関制御室 (2)



24) W43-24 仁光丸 主機操縦台



7. 「ジャパン・エース」(JAPAN ACE)

25)～29)は「船の科学」1969-1 (Vol.22, No.1)より採取。

- ・ 23次コンテナ船 ジャパン・エース DWT 15,819kt
コンテナ積載数 730 個 (内 レフコン 102 個)
- ・ 船主 : ジャパン・ライン (株)
- ・ 建造 : 石川島播磨重工業 (株) 相生第1工場
昭和43年11月8日 竣工

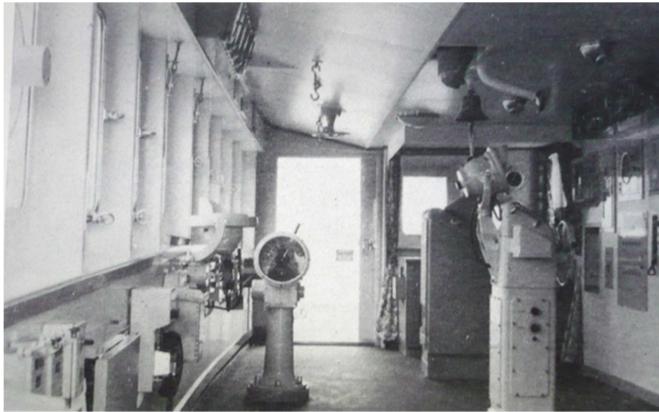
- ・ 25) は本船全景、26) は操舵室、27) は操舵室の後面と海図室、手前に見えるのは無線方位測定機で、奥は Chart Table である。

25) W43-25 ジャパン・エース 全景

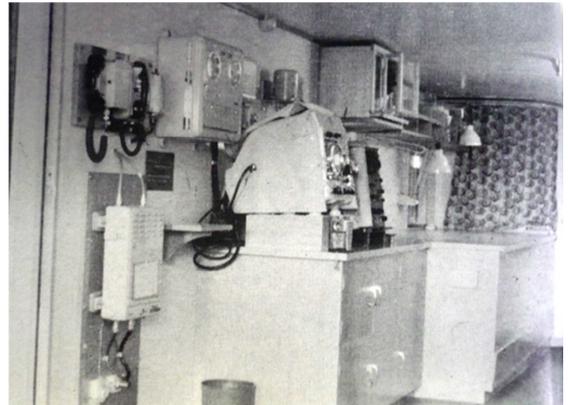
- ・28)、29) は機関制御室で、28)の手前は 主機補機の遠隔制御盤で、29) は監視計器盤である。Graphic Panel が採用されている。



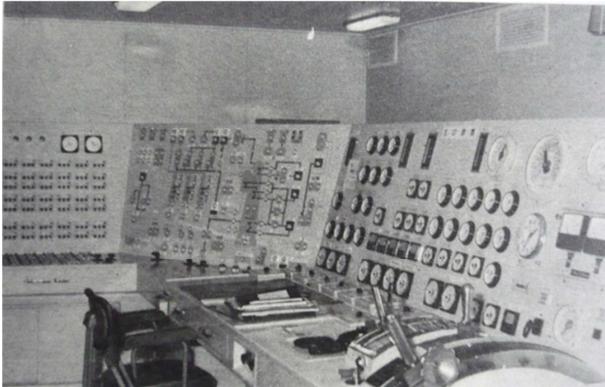
26) W43-26 ジャパン・エース 操舵室



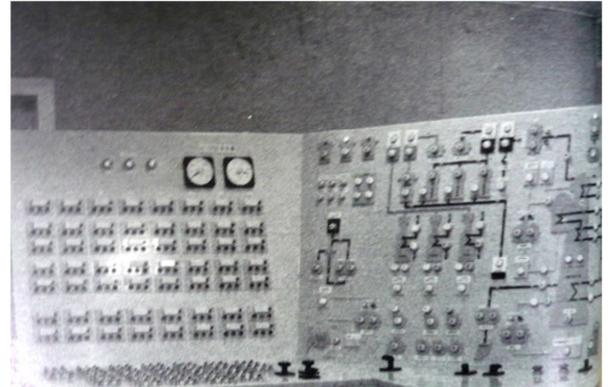
27) W43-27 ジャパン・エース 海図室



28) W43-28 ジャパン・エース 機関制御室



29) W43-29 ジャパン・エース 機関制御室



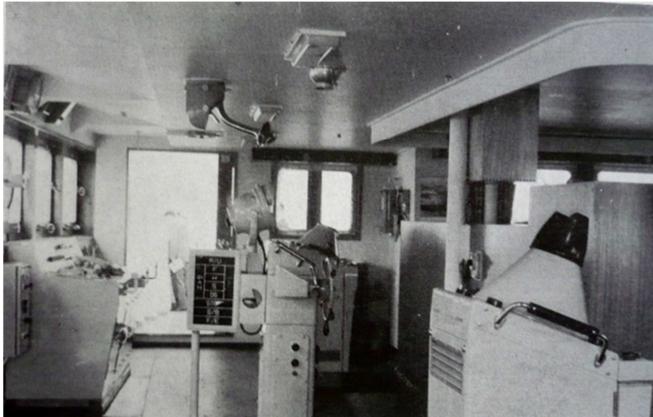
30) W43-30 加州丸 全景

8. 「加州丸」 30) ~ 35) は「船の科学」1969-1 (Vol.22, No.1) より採取。
- ・24次コンテナ船 加州丸 DWT 15,014 kt
コンテナ積載数 20' 615 個
40' 58 個
 - ・船主 : 山下新日本汽船 (株)
 - ・建造 : 日立造船 (株) 因島工場
昭和43年10月30日 竣工

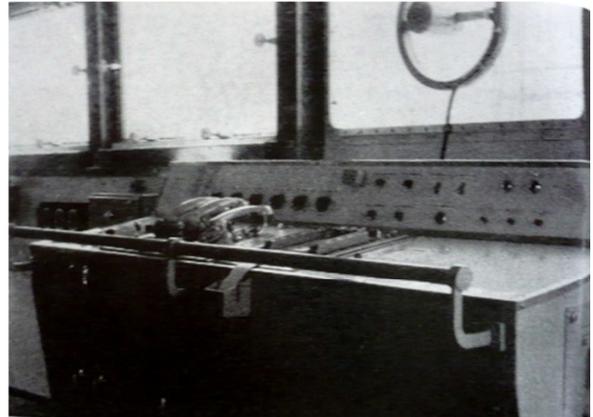


- ・ 30) は本船全景、31)、32) は操舵室で、32) は Bridge Console である。
- ・ 33)、34) は機関制御室で、34) は主機操縦盤を示す。
- ・ 35) は冷凍コンテナ監視盤である。

31) W43-31 加州丸 操舵室



32) W43-32 加州丸 Bridge Console



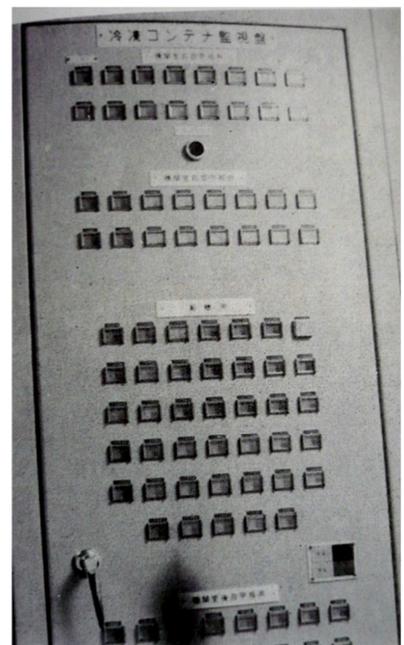
33) W43-33 加州丸 機関制御室



34) W43-34 加州丸 主機操縦盤



35) W43-35 加州丸 冷凍コンテナ監視盤



9. 「ごーるでん げいと ぶりっじ」 (GOLDEN GATE BRIDGE)

36) ~ 38) は「船の科学」1969-1 (Vol.22, No.1) より採取。

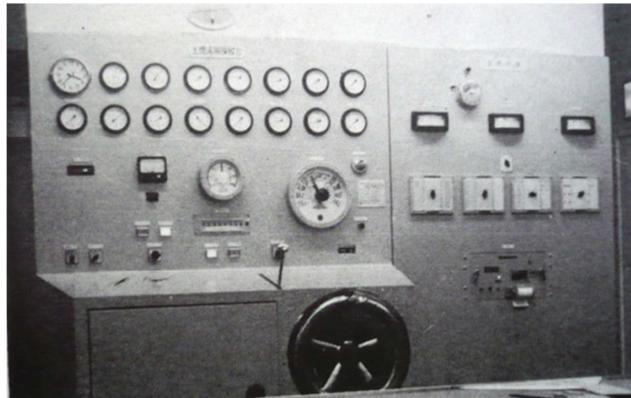
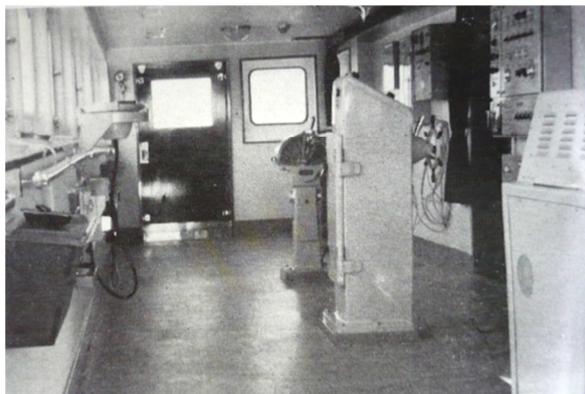
- ・ 23次コンテナ船 「ごーるでん げいと ぶりっじ」
DWT 24,832 kt コンテナ積載数 20' 484 個、40' 116 個
- ・ 船主 : 川崎汽船 (株)
- ・ 建造 : 川崎重工業 (株) 神戸 昭和43年10月26日 竣工

36) W43-36 Golden Gate Bridge 全景



・ 36) は本船全景、37) は操舵室、38) は機関制御室の主機遠隔操縦台である。

37) W43-37 Golden Gate Bridge 操舵室 38) W43-38 同左 制御室 主機遠隔操縦台



[メモ]

- 1) 冷蔵貨物船やコンベアばら積船など珍しい船が建造されている。
- 2) コンテナ船の建造が始まった (箱根丸、ジャパン・エース、GOLDEN GATE BRIDGE、加州丸など)。
- 3) 我が国初の夜間、機関室無人化船が建造された (仁光丸)。
- 4) タンカーの大型化がさらに進んだ (DWT 312,000 トン、 UNIVERSAL IRELAND など6隻)。
これら大型タンカーの Engine Control Room の Console、 Cargo Oil Control Room の Console は大きくて立派で、見栄えがする。
- 5) 無線装置では従来の電信に加え、SSB電話が使用されるようになった。